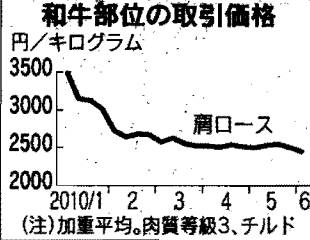


牛肉の高級部位下落

3～5%安 低価格志向映す

牛肉の高級部位の取引価格が下落基調だ。肩ロースやヒレの価格は前年同期に比べ3～5%安い。消費者の低価格志向を映し、高級品の需要が



振るわない。宮崎県の口蹄疫(こうていいえき)問題に絡み、一部地域向けを除き輸出が停止され、在庫が増えたことが一因との見方もある。

和牛の肩ロース(肉質等級3、冷蔵物)の6月上旬(7/11日)の卸値は1.2449円で前年同期に比べ1.24(5%)安い。ヒレ、ロインはいずれも3%安い。

高級部位は小売価格も軟調だ。農林水産省が14

日にまとめた調査結果によると、ロース冷蔵物は100.676円で、前年同期より3%安い。

食肉業界では、余剰感のある高級部位を中心に中国や米国に輸出する動きがあった。しかし口蹄疫問題を受け、香港・マカオ向けを除き輸出が停止されたままで、「高級部位の荷余り感が強まった」(食肉卸)という。

農畜産業振興機構(東京・港)によると、4月の牛肉の輸出量は77.1万トンで前月より7%減少。国産品の推定在庫量は4%増えた。